

令和5年度実施事業の成果



写真1 ^{さかたにもん}坂谷門完掘(俯瞰撮影・写真上が東)
^{ふかん}

I. はじめに

『岡崎城跡整備基本計画-平成28年度改訂版-』(H29.3)の策定から7年目の令和5年度は、「Ⅱ. 調査事業」として坂谷曲輪の発掘調査、本丸の試掘調査を行いました。また、「Ⅲ. 石垣保存事業」として石垣をき損する樹木の伐採、石垣測量、石垣変位計測等を行いました。

その他、令和3年7月の^{みなみきりどお}南切通しの崩落に続き、今年^{たつきぼり}は龍城堀(本丸堀)と本丸御門西袖の2箇所^{ほんまるごもんにしそで}で石垣崩落被害が発生しましたので、この復旧を行いました。

今回は令和5年度の実施事業についてご紹介します。

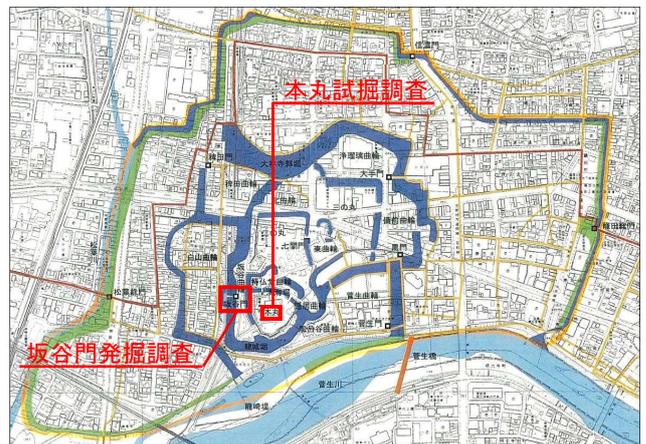


図1 岡崎城郭図と令和5年度調査地点

II. 調査事業

1. 坂谷曲輪発掘調査

坂谷曲輪は本丸や二の丸の西側、一段低いところに位置する南北に細長い曲輪です。江戸時代前期、岡崎城城主の本多康重により作られた曲輪と考えられています。今回はこの曲輪の中央部に位置する坂谷門のうち 273 m² を発掘調査しました。

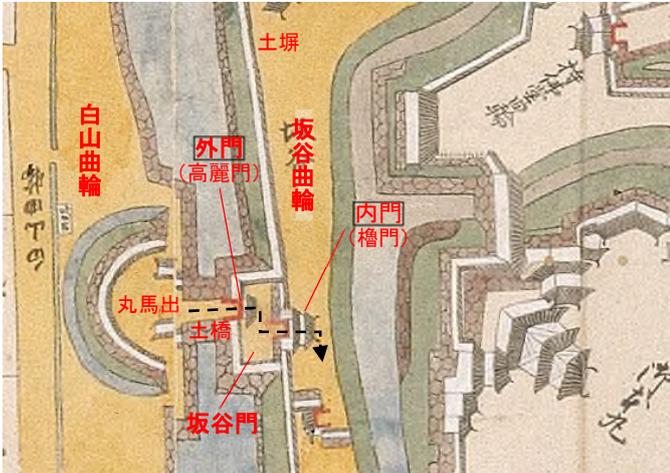


図2 水野家時代(1645~1762年)岡崎城絵図から抜粋

調査成果

外門側では、今回新たに北側の控柱の礎石が発見されました。これで、令和2年度の第1次調査(岡崎城だより No.4 参照)で確認された南側の鏡柱と控柱の礎石と合わせて礎石3石が残っていることが分かりました。北側の鏡柱は発見されませんでした。おそらく明治時代初期に行われた伊賀川の護岸改修工事の際に移動されたものと考えられます。礎石にはきれいな直方体や半球状のホゾ穴が開いています。また、柱が当たっていた柱当たり部分は非常に丁寧に整形されています。



写真2 坂谷門外門検出状況(西から撮影)



写真3 坂谷門外門礎石(北から撮影)

内門側では、礎石8石が発見されました。門の内側に5石、外側に3石が並んでいます。内側には門扉や潜戸が取り付けられていたものと考えられます。



写真4 坂谷門内門礎石(西から撮影)

内門の礎石にも柱当たり痕が見られますが、外門の礎石のようなホゾ穴はありません。写真5の礎石は、柱当たり痕の外側が茶色く変色しています。これは、礎石に乗る柱が金属で補強されていたため、その錆が礎石に沈着したものと考えられます。また、門の礎石の南北には数石の築石と栗石が確認されました。これは内門両脇の石垣部と考えられます。



写真5 柱当たり痕

その他にも、絵図に描かれていない石組み溝(写真6)や、石垣に刻まれた刻印(写真7)も確認されました。石組み溝は坂谷曲輪側の雨水を外へ流すための排水施設と考えられます。石垣の刻印は「大」の字が書かれています。(刻印は現在、土の中にあるため見られません)



写真6 石組み溝



写真7 刻印「大」

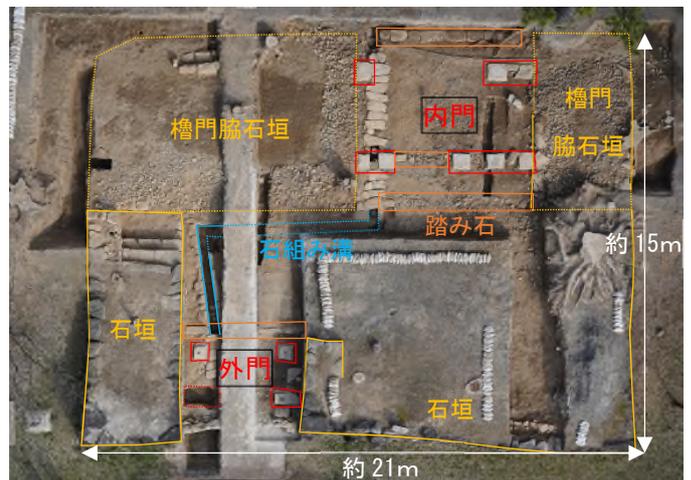


写真8 坂谷門枅形(写真上が東)

今回の発掘調査成果を動画公開しています。動画の最後には、調査成果から想像した門の復元イメージも見られます。



是非こちらも合わせてご覧ください

2. 本丸試掘調査

今回試掘調査を実施した箇所は、本丸の中央付近に位置します。すぐ近くで近年行われた調査では、今の地面の高さから約 80 cm の深さで、時代不詳の四半敷(石や瓦などを建物に対して 45 度傾けて並べ敷く床張技法)や瓦溜まりなどが確認されています。

調査成果 試掘調査の規模は5×4mで約 20 m²です。堆積層は大まかに3層に分かれており、一番上の1層目が近現代、2層目が近世末期か近代、3層目が近世の堆積と考えられます。

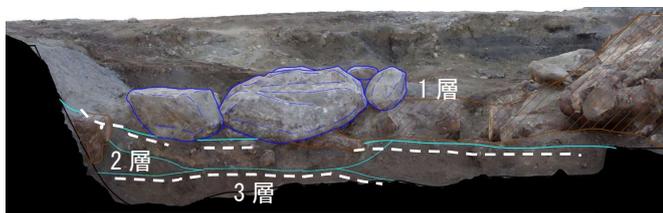


図3 調査区南北断面 (東から撮影)

2層目には水野家の沢瀉紋や後本多家の輪違紋が描かれた瓦が多数出土しました(写真9・10)。3層目は表面にこぶし大の礫が敷き詰められています。また、この礫敷きの東側には1辺が 2~30 cm ほどの大きさの方形の石が直線的に並べられています(写真 11 の「石列」)。

3層目の礫敷きは、確認された深さが上述の四半敷と同程度であるため、両者は同時期の遺構の可能性がります。いずれも絵図には描かれていない遺構です。



写真9 2層出土鳥瓦 (輪違文)



写真10 2層出土火箱



写真11 3層上面礫敷検出状況 (北から撮影)

Ⅲ. 石垣保存修理事業

『岡崎城跡石垣保存修理基本計画』(H30.3)に基づき、石垣をき損する樹木の伐採、石垣測量、石垣変位計測、石垣点検を行いました。

1. 石垣き損樹木伐採

史跡岡崎城跡内には平成 29 年3月時点で約 1500 本の高木が生育しています。その内、石垣や石垣天端に生育し、石垣をき損するものは 172 本を数えます。これらの伐採を平成 30 年度に開始し、令和5年度は 14 本の伐採を行いました。これにより合計 79 本の伐採を終えました。14 本の中には、天守台石垣の脇に生育していた松があります。木の幹が天守台南面の石垣に接しており、このままでは石垣をき損する恐れがありました。

松の伐採後、年輪を数えて樹齢を計測したところ、約 100 年前(大正時代頃)に生育を始めたものと判明しました。



写真12 天守台石垣南側の松伐採前(左)・後(右)

2. 石垣計測



図4 岡崎城跡石垣計測箇所

(1) 石垣測量 (図4)

岡崎城内の石垣は全部で 224 面あります。石垣測量図は、万が一石垣が崩落してしまった際の修復に必要な基礎資料になります。平成 29 年度から開始し、令和 5 年度は 9 面で石垣測量を行いました。

これにより合計 94 面の測量を終えました。

(2)石垣変位計測 (図4)

石垣は木の根による内側からの圧力や、気温・湿度など様々な要因で変形してしまうことがあります。このようなリスクがある石垣に対し、レーザーによる高精度の計測を行い、危険な変化が起こっていないかを確認しています。計測は危険度A（現状で石垣の変状が著しく、利用形態上の危険性が高い石垣）と判定された8箇所で行っています。結果として、令和5年度も計測した8箇所の石垣に大きな変状は見られませんでした。

(3)石垣点検

石垣点検は危険度A判定以外の石垣に対しても、機器（クラックゲージ、ガラス棒）を設置して年に4回点検する作業です。変位計測を補足する目的で令和元年度から開始しました。

点検結果では石垣の変状は認められませんでした。

3. 崩落石垣の復旧工事

令和5年4月9日（日）、龍城堀の南面石垣の一部が崩落しました。続く6月2日（金）、本丸御門西袖の石垣の一部が崩落しました。



図5 令和5年度石垣崩落箇所

(1)龍城堀(本丸堀)石垣 (写真13)

龍城堀の崩落箇所はおおよそ幅 2.9m、奥行き 0.7m、高さ 1.7mの範囲です。石垣修復までしばらく時間が空いてしまうため、その間に周囲の石垣崩落の再発や石垣の後ろの土砂が崩れることがないように、横から圧迫するように普通土のうと大型土のうを並べて応急復旧を行いました。令和6年度から発掘調査を行い、石垣修復のための調査を進めてまいります。

(2)本丸御門石垣 (写真14)

本丸御門西袖の崩落箇所はおおよそ幅 1.2m、奥行き 0.7m、高さ 0.8mの範囲です。7月5日から11日にかけて、崩落箇所の調査を行いました。



写真13 龍城堀石垣崩落箇所 復旧前（左）・後（右）

調査方法は崩落した土砂を除去し、背後の地山や周囲の石垣の石積み方法を確認するというものです。その結果、崩落箇所は元々石垣の背後に栗石が詰められておらず、柔らかい土砂で埋めた後に、薄い石が貼り付けられていたことが判明しました。これが原因で、石垣が不安定な状態であったものと考えられます。

そのため、調査により土砂を除去した後、上部の石垣を支えるための大きな石を設置し、石垣前面に土嚢を設置して崩落箇所を押さえつける措置をしました。



写真14 本丸御門西袖石垣 崩落箇所（左）・現況（右）

● 岡崎城だよりのバックナンバー

巻数	発行年月	主なテーマ
No.1	2017年11月	岡崎城だよりに発行スタート！月見櫓の遺構を発見
No.2	2019年3月	天守台石垣の調査で、「三葉葵紋金箔瓦」大発見
No.3	2020年3月	清海堀の調査で、絵図に無い未知の石垣発見
No.4	2021年3月	坂谷曲輪の1次調査！菅生川端石垣の整備も実施
No.5	2022年4月	菅生川端石垣の整備完了！その矢先、南切通しの石垣が崩落
No.6	2024年5月	南切通しの石垣積直しに向けて発掘調査。そして積直し開始



岡崎城だよりの No. 7

発行年月日 令和6年6月4日
 編集・発行 〒444-8601
 岡崎市十王町2-9
 岡崎市教育委員会社会教育課
 TEL：0564-23-7270